

目白だより

第12号
平成25年2月1日
豊島区立目白小学校



確かな学力を支える生活習慣

～学力日本一 秋田県能代市の取組に学ぶもの～

校長 宮澤晴彦

如月(きさらぎ)2月。寒さで着物を更に重ねて着ることから「着更着(きさらぎ)」と言われるとおり、立春を前にしてもまだまだ寒さが残っています。この寒さからか、本校にもインフルエンザの流行の波が押し寄せ、1月末に5年生と3年生で学級閉鎖を行いました。全校あげて、うがい、手洗い、加湿と換気に努めているところですが、ご家庭でも風邪の予防に効くと言われているビタミンCとビタミンEを普段より多めにし、流行を止めましょう。

さて、先日、豊島区公会堂で教育委員会主催の「学力向上シンポジウム」が開催されました。そして、昨年から教育交流を進めている秋田県能代市と自治体同士では初めてとなる教育連携の協定書を締結したのです。これは、文部科学省が実施している全国学力テストにおいて毎年トップの好成績を収めている秋田県能代市との教育連携で互いの取組のよさを学び合い、子どもたちの学力の一層の向上を目指すことがねらいです。本校の荒木主幹教諭も昨秋に区の教育派遣団の一員として能代市を訪問し、教育フォーラムに参加しています。

このシンポジウムの中で、須藤能代市教育長から「すべてのはじめは生活習慣の確立から」というお話がありました。それは、各家庭に「朝ごはんをしっかり食べさせること、洗濯したものを着せること、よく寝かせることの徹底」をお願いしたというものでした。また、通塾率の低い秋田では、徹底した「家庭学習」も推奨したそうです。今年度の調査においても「家で学校の復習をしている」と答えた秋田県の子どもは、全国平均を37ポイントも上回っているのです。さらに、能代市では、補充的な学習(基礎的な学習習慣の確立)、読書の推進などにも力を入れているそうです。

須藤教育長は同時に、学校は何よりも「わかる授業、魅力ある授業を追求し、確かな学力を定着させるプロの教師の力量を高めなければならない」ともお話しされました。私もその通りだと思います。学校教育を支える家庭生活と家庭学習そして、家庭の信頼を得る教師の高い力量・授業力が車の両輪のように一体となって教育を前進させることが大切なのです。

現在、本校では昨年末にご協力いただいた学校評価をもとに、次年度の教育課程の編成作業を行っています。「確かな学力と豊かな心、健やかな体を育む目白小学校」を目指し、ご家庭の皆様とは課題解決に向けた取組を共通理解できるように、様々な機会を通してきめ細かな説明を重ねたいと思っています。

2月の行事予定

1日(金) 節分体験(各学年)	15日(金) 委員会発表
4日(月) お話朝会(校庭) 委員会	18日(月) お話朝会
5日(火) 安全指導日	クラブ 3年クラブ見学①
7日(木) 避難訓練(清掃中)	20日(木) 5時間授業(短縮時程)
8日(金) 運動集会 SMASH	21日(木) 交流給食・話し合い
9日(土) 土曜授業(2時間) 学校保健委員会	22日(金) 音楽朝会
12日(火) なかよし班大会	25日(月) お話朝会
13日(水) なかよし班大会 午前授業	クラブ 3年クラブ見学②
14日(木) 新1年保護者会(14:00～)	28日(木) PTA総会(15:00～コミュニケーションルーム)

「今年度の研究より」

研究推進委員会

国語の教科書には、「お母さんもこのお話読んだよ。」と話題にできる昔からの文学作品がどの学年にも載っています。この、優れた文学作品をじっくり読むと、作品の様々なしなやかさが見えてきます。文字を追うだけでなく、作品に浸って心で読み深め、味わい、それをお互いに伝え合って深めていけるよう、今年度は国語の授業の充実を図ってきました。

どの学年も、言葉にこだわって、一人一人が作品と向かい合う時間をたっぷりとり、読み取ったことを友達と伝え合う時間を設けたり、友達と考えを交流させた後に、もう一度自分の考えを振り返る時間を作ったりしてきました。そこから、「読み取る力」と「伝え合う力」をつけていけたら、と考えました。

「伝え合う」ということは、ただ、自分の考えを一方向的に話すことではありません。相手の考えを受け入れて、お互いの考えを行き来させることです。それは、「考え」だけでなく、「相手そのもの」を受け入れることにつながります。

目白小は、自分の考えを堂々と上手に発表できる子どもたちがたくさんいます。その考えが相手にどう伝わったのか、相手はどんな考えをもっているかを話すことで、学びを深め、友達を理解することができます。

目白の子どもたちが「友達と伝え合うこと」の楽しさを味わいながら学んでいくことができるように、私たち目白の教員もお互いの考えを「伝え合い」ながら学び続けたいと思います。

「高学年を目指して」

3年担任

目白小学校の3年生として過ごすのもあと2か月になってしまいました。最近風邪やインフルエンザが流行ってきて、ついに2組は学級閉鎖になってしまいました。でも、普段は学校中で一番元気の3年生です。

1月には初めての席書会があり、真剣に書き初めに取り組みました。出来上がった作品はどれも個性あふれ、素晴らしいものばかりです。冬休みにたくさん練習した子どももいて、自信をもって筆をはしらせている姿が、とてもたくましく感じられました。

土の校庭は雪が降るとすぐに使えなくなり、外遊びができなくなることから、子どもたちの力が有り余ってしまうこともありますが、みんな笑顔で遊んでいる姿を見るとこちらも嬉しくなります。さて、これからの毎日、4年生という高学年への仲間入りを意識させていく時期になりました。学習の仕方、ノートの使い方も高学年を意識した活動になってきます。また、みんなが楽しみにしているクラブ活動も視野に入ってきました。子どもたちが元気で楽しく学習できるように、また、一人一人のよさをお互いに認め合えるような学年作りをしていきますので、ご協力をお願いいたします。

「クラブ活動」

特別活動部

クラブ活動は、4・5・6年生の子どもたちが自分の興味のあることや好きなことを異学年の仲間とともに深めていく活動です。今年度は、テニス、サッカー、陸上、バスケットボール、卓球、アウトドア、科学、ゲーム、パソコン、アート・工作、スイーツパラダイス、手芸の12のクラブが活動しています。

どのクラブの活動でも、4年生から6年生までの子どもたちが一緒に、活動を楽しんだり、協力したり、心を合わせたりすることを通してよりよい人間関係を築く姿が見られます。発達の段階や経験の差を理解し、それぞれのよさに目を向けて励まし合い、また上級生が下級生にやさしく教えているほほえましい姿も見られ、目白小の仲間としての絆を深めていると感じます。

さて、今月、3年生を対象に「クラブ見学」を行います。自分の興味のあることに目を向け、自主的に活動できるクラブを見つけて欲しいと願っています。また、4・5年生には、新しいクラブを足踏させるチャンスも待っています。「こんなクラブをつくりたい!」という子どもたちの気持ちをもとに、クラブの内容を考え、仲間を集めて新設する『この指とまれ作戦』です。子どもの豊かな発想でどんなクラブが立ち上げられるのか楽しみです。